

楽しく学べるアイデア集

【1】カードゲーム

⇔ EXERCISES II

- ① 5人程度のグループにトランプを配る。
- ② はじめに、教師は「1がありますか」と聞き、「1」を持っている生徒が「はい、あります。」と言ってカードを出す。複数の生徒が「1」のカードを持っている場合は、一番早く置いた生徒以外は出すことができない。
- ③ 同様にして、「13」まで順に、「～が ありますか。」「はい、あります。」のQAをしながら、進めていく。
- ④ 「1」～「13」を 4 回繰り返すことになるが、手持ちのカードがなくなった生徒から、「カードが ありません。」と言って勝ち抜ける。
 - * ハート、ダイヤ、スペード、クラブのマークごとに「1」から「13」まで、「ハートの1はありますか。」「ハードの2はありますか。」のように進めてもよい。また、「ダイヤの2はありますか」「クラブの3はありますか。」のように、マークを順不同にしてもよい。
 - * トランプのかわりに、単語のカルタを用意してもよい。教師が五十音順不同に、「_____のカードは ありますか。」と聞いて、同様に行う。生徒のカードは、イラスト版、文字版(かなと既習の漢字)など、進度に応じる。

【2】助数詞ゲーム

⇔ EXERCISES II

日本語で書かれた算数の文章題を読んで、答えを出す。

例. ◇木村さんは 友だちに ばらを 20本 もらいました。田中先生に 5本あげました。(ばら=rose)
エレナさんに 2本 あげました。みどりちゃんにも 2本あげました。木村さんは いま ばらが
何本 ありますか。

◇バードくんは 大きい ノートが 8さつと けしゴムが 5つ あります。かとうくんは 大きい ノートを
3さつと けしゴムの ふたつ あげました。そして、かとうくんは 小さい ノートを 2さつ もらいました。
バードくんは いま けしゴムが いくつ ありますか。

文章題のカードを何枚も用意し、生徒がランダムに引いて自分で読んで答える方式でも、教師が読み聞かせて生徒が答える方式でもよい。読解にするか、聴解にするかは、学習目的にあわせて選ぶが、読み聞かせる場合は、生徒には解答シートを配っておき、記入したものを集めて正解の多かった生徒を優勝とする。